

Hello! FUJISEI

No.117

厚生労働省の「平成23年簡易生命表」によると、日本人の平均寿命は、男性が79.44年、女性が85.90年でした。しかし、いくら長寿社会が進もうとも、人はいずれ何らかの死因で亡くなります。

生命表の上で、ある年齢の者が将来どの死因で死亡するかを計算し確率の形で表したものを「死因別死亡確率」（実際の死亡数とは異なります）といいます。

昭和56年から死因第1位を続けるがん（悪性新生物）ですが、死因別死亡確率は、0歳では男女ともがんで将来死亡する確率が最も高く、以下、男性は心疾患、肺炎、脳血管疾患、女性は心疾患、脳血管疾患、肺炎の順になっています。65歳では0歳に比べ、がんの死亡確率は少し低くなり、他の死亡確率が高くなります。しかし、それでもがんは年齢にかかわらず、生涯を通じて怖い病気であることは間違いありません。

男性では、0歳、65歳、75歳の各年齢で、3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）の死亡確率は5割を超えています。

ある死因が克服されたと仮定すると、死亡時期の繰り延べが生じ、余命が延びることになります。この延びは、その死因のために失われた余

長生きと病気への不安

治ると言われても やはり怖い“がん”

命と考えられます。がんを除去するは怖い病気です。
と、平均寿命は、男性3.75年、女性 2.88年、延びます。やはり、“がん” がんことの多い病気です。また、脳血管疾患は要介護につな

死因別死亡確率（主要死因）

